



6・7月に市内で行われたイベントについてお知らせします

今月の表紙 リオ五輪女子ホッケー激励会



7月6日(水)、日光街道ニコニコ本陣で、リオデジャネイロ五輪女子ホッケーに出場する柴田あかね選手とバックアップメンバーとして選出された大家涼子選手の激励会が盛大に行われました。2人が所属するグラクソ・スミスクラインや地元スポーツ少年団ホッケーチーム、関係者など200名以上が集まり、両選手には寄せ書きをした国旗が贈られました。

激励会での所信表明で柴田選手は「今回チームの副キャプテンとして出場するので、チームをまとめ、一戦一戦しっかりと戦っていきたい」と語ってくれました。

一方、大家選手は「常にいい準備をして、いつでも試合に出られるようにしたい」と話していました。2人のリオでの活躍が期待されます。



7月2(土)・3(日)、日光手打ちそばの会は、日光だいや川公園で日本一早い「日光夏の新そばまつり」を開催しました。

夏そばは、4月中旬に種まきし、6月下旬に収穫を迎えます。早起き・早刈りをすることで、通常の秋そばよりも青みの掛かった清涼感のある、鮮やかな色に仕上がるのが特徴です。

会場には、4つのそばのブース

が並び、それぞれにそば打ちやそばを切る過程も披露され、長蛇の列ができました。また、「夏そば秋そば食べ比べ大会」や「そば打ち体験教室」が行われ、グルーピングや家族連れなど大勢の人でぎわいました。埼玉県から訪れた桜井さんは「夏の新そばは、香りも喉越しも良く、とてもおいしいですね。また来年も食べたいです」と満足そうに話してくれました。

日光夏の新そばまつり



6月8日(水)に足尾の庚申山で、国の特別天然記念物「コウシンソウ」の開花調査が行われました。今年は5月22日に開花が確認され、調査当日は切り立った岩肌に群生するコウシンソウを見ることができました。

小指ほどの大きさで薄紫色の花を咲かせるコウシンソウを見た参加者たちは、険しい山道を登山した疲れを忘れたかのように写真撮影に夢中になりました。

コウシンソウ調査会



足尾中学校に勤務して4年目という國廣俊二さんは「中学校の壁面にコウシンソウが描かれていたのを見て、その存在を知りました。いつか自分のカメラで写真に収めたいと思っていましたが、ついに念願が叶いました。想像していたよりも小さく、かわいらしい姿に驚きました」と、とてもうれしそうに話してくれました。

日光夏の新そばまつり



6月11日(土)・18日(土)、日光だいや川公園で、毎年恒例のホタル観賞会が開催されました。このイベントは平成20年度から行っているもので、今年で9回になります。

日が沈み周囲が暗くなると、公園内にはたくさんのホタルが舞い始め、辺りは幻想的な雰囲気に包まれました。

ホタル観賞会

いますぽフェスタ



6月12日(日)、今市青少年スポーツセンターで「いますぽフェスタ」が行われました。

会場では、栃木SCの選手によるサッカー教室やグラクソ・スミスクラインとLIEBE栃木の選手によるホッケー教室、チャレンジクライミング、エアロビクス、ピラティスなどさまざまなスポーツ教室が行われ、600名以上が参加しました。

参加者たちは、真剣に、時に笑顔でたくさん汗をかきながら、それぞれのスポーツに取り組んでいました。

チャレンジクライミングに挑戦した小学5年生の小太刀碧さん(大沢)は、「学校から配られたチラシを見て知りました。クライミングは初めてやってみたけどすごく楽しかった！ またやりたいです」と笑顔で話してくれました。



さまざまな地域・分野で活躍する市内在住の芸術家たちが、日光地域を中心に「キリフリ谷の藝術祭」を開催しました。6月から1カ月間、陶芸や彫刻、ステンドグラス、絵画、ポスターなどの作品をベンションやカフェなどで展示したり、ワークショップを開いたり、週末には座談会や演奏会などを行つたりしました。

ペンション「トロールの森」で行われた「霧降の森ジョイントコ



ンサート」では、5グループが「古くて新しい音楽をめぐる」をテーマに15曲を演奏しました。また、「クルムホルン」や「ティバ・パイプ」など珍しい古楽器の演奏もあり、来場者は普段耳にできない音楽を堪能しました。

友達と訪れた角田園(のぞみ)子さん(市内住)は、「珍しい楽器の演奏を緑の中で聴き、豊かな気持ちになりました。楽しい時間でした」と笑顔で答えてくれました。

キリフリ谷の藝術祭